

校長室だより

No. 38

平成30年2月2日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよしかず
加藤嘉一

教室の風景

今週、授業を見て回っていくと、こんな場面に出会いました。

3の2 道徳の授業

(読み物のストーリー) 足が不自由で重い荷物を持って歩いているおばあさんを見かけ、手伝おうとしたが、おばあさんに遠慮された主人公。実は、そのおばあさんは歩く練習をして今治ってきたのだということを知る。数日後再会し荷物を持ってあげるか迷う。そとおばあさんの後ろをついて歩いていくと、娘さんに「だいぶ歩けるようになったわねえ。」と言われ、おばあさんはうれしそうな顔を見たというお話し。

(授業途中でわたしが出会った場面) 自分がこのような場面にあったらどうするかを学級で話し合っている最中。Aさんがある場面を思い出して発言しました。

Aさん「この間電車乗ってたらね、優先席なのに、ゲームやってて、前におばあさんがいたのに、こんな格好(斜めにもたれかかって座っており、足を広げ投げ出している様子)で、ずーっと知らんぷりして座っていた人がいたよ。」

太田先生「ええ、それいくつぐらいの人?中学生?高校生?」

Aさん「わかんない。中学生かな、あ、高校生くらいかな。気がついているのにさあ、ずうっとゲームやってたよ。」

Aさんの口調を聞いていると、小さい学年の子供によくある「〇〇さんが、いたずらしていたよ」のような、先生への言い付けに似ていました。Aさんの話ぶりがあまりにもおかしくて、しばらくその場にいたくなり、対話の様子を聞かせてもらいました。子供と先生でつくる学級の雰囲気になんとも楽しかった。



【3の2 道徳の授業】

素晴らしいのは、主人公の心の葛藤をもとに「思いやり」はどうあるべきかを考える場面で、Aさんが自分の生活経験を思い出し、つないでいたことでした。3年生のAさんの心の中では、「高齢者には席を譲ってあげるべき」という価値観がしっかりありました。Aさんは、おばあさんとも一緒に暮らしており、買い物にも時々一緒に行く子です。だからこそその発言だったのだろうと想像しました。Aさんのおかげで、学級の子も読み物の世界から、ぐっと自分の生活とつないで考えるようになっていました。この日以降の生活でどう生きるのでしょうか。

次は、隣の5年2組の教室へ行くと、算数の「割合」を初めて学習する授業でした。例題(次頁資料参照)では、「それぞれのクラブの希望者は、定員の何倍に

なっているか」を求める問題です。子供たちは今までの学びをもとに、(希望者) ÷ (定員) を計算し何倍かを求めていました。通常であれば、

クラブ	定員 (人)	希望者 (人)
ソフトボール	20	40
サッカー	25	45

【資料】

ここで「ある量をもとにして、比べる量がもとにする量の何倍にあたるかを表わした数を、割合とよぶ」ことを教えてもらいます。

しかし、石川先生は、ここで教科書の例だけでなく、「子供が5人います。この時、配ることができるカレーライス10人分は子供の人数の何倍にあたるか」と、独自の例を示していました。子供の生活に近い例を加えれば、新しい概念である割合は、実は身近にあって使えるものだと思えることができると考えたのだと思います。子供たちの生活に近づけること、例を増やし、今まで生活で考えもしなかった見方や考え方を見えるようにしてあげること、子供の側に立った授業をしていて、またまた楽しくなり、しばらくいさせてもらいました。

素敵な教室の風景でした。「知識・技能」は、昭和の時代に求められた教科領域固有の内容を暗記・習得する「知識・技能」(何を知っているか)から、「生きて働く『知識・技能』」(何を理解しているか)へと変わることが求められています。2つの授業で見られた場面は、「日常生活とつなぐ」ということで、学習が普段の生活に生きることを子供たちに示唆しています。ちなみに、わたしは割合の単元の終わりくらいに、右のような問題を、子供と議論してみたいと考えました。4人家族というところがみそです。

【問題】 Aさんは4人家族です。

スーパーへ行ったら、大売り出しで、次の2種類のバームクーヘンが売られていました。

ア バームクーヘン4個で600円の品を10%引き

イ バームクーヘン5個で800円の品を20%引き

あなたがAさんだったら、どちらを買いますか。

今回日常生活とつないだ2つの例を紹介しました。「ならば、常に日常生活とつなげる学習をすればよい」と短絡的に考えてはいけません。汎用的に使えるようにするためにはどうしたらよいか、深い学びにするにはどうするとよいか。1時間の学習だけで考えるのではなく、もっと深く考え、工夫していく必要があります。

平成32年度から始まる新しい学習の方向を中心となって考えた方々の中に、「ドリルをどこまで減らせるかが、これからの学習指導における重要なテーマであると本気で考えている」と著書に書いている方がいます。また、今回、初めて「学びに向かう力・人間性等」といった柱が登場する学習へと進みます。大学入試改革も大きな一歩を踏み出し、これまでの学力を進化させようとしています。目指すところは、「優れた問題解決者」です。今後も授業を研究し続けます。